

小学校 第1学年算数科での実践事例

単元名「大きいかず」

小豆島町立池田小学校 教諭 児山 真寿美

アクティブ・ラーニングの視点からの工夫

- 前時の振り返りを生かし、見通しをもって学習することを重視し、主体的に取り組めるようにした。
- ペア交流や全体交流の場で、考えを述べた後に「どうしてですか。」と問いかける活動を繰り返す、根拠を明確にして説明できるようにした。

1 学習指導過程（本時7 / 13）

○本時の目標

100までの数の系列や順序を理解する。

学習活動	指導上の留意点
1 問題場面をとらえ、課題を確認する。	☑ 2つの数（92と76，65と69）で大きさ比べをして前時の学習を振り返り、解き方の見通しがもてるようにする。
数の並べ方を考えよう。	
2 問題を解く。 「大きい順だと100，96，76，39の順になるよ。74はどこに入るのかな。」 (1)自力解決 (2)ペア交流 (3)全体交流	☑ 5枚のカード（100，96，76，39，74）を用意し、動かしながら大きさ比べができるようにする。 ☑ ペア交流では「74は～と～の間です。」「どうしてですか。」「十のくらいを見ると…」「一の位を見ると…」という話型を示し、理由もつけて話し合えるようにする。 ☑ 見通しの横に分かったことを板書し、見通しが正しかったことを確認する。
3 適用問題を解く。 「93，94，（ ），（ ），97，98」 「25，24，（ ），（ ），21，（ ）」 「（ ），（ ），50，（ ），70，80」	☑ 増えた数，減った数を問いかけ、並び方のきまりを見つけて解くよう助言する。
4 学習のまとめをする。	☑ 比べる数が増えても順番に並べられるか問いかけ、同じように考えればよいことをおさえる。
十の位や一の位を比べたり，増えた数，減った数を考えたりする。	

2 実践後の児童の変容

- 既習事項を掲示し、導入で前時を振り返ってから授業を始めるようにしたことで、解法の見通しがもてるようになってきた。
- ペア交流で、「～です。」と友だちが考えを述べた後、「どうしてですか？」ときく活動を繰り返したことで、全体交流でも「どうしてですか？」と尋ねる児童が増え、理由をつけて話せるようになった。

3 本実践での課題

- ペア交流で早く終わったところは、理由を文章で書くよう指示を出した方がよかった。ゆっくり進む児童だけでなく、早く進む児童にも支援が必要である。
- 学習内容をまとめる際、教師が書いてしまうのではなく、児童にキーワードとなる大切な言葉を問いかけ、教師がつなげて文章にするとよい。そうすることで、児童自身が学んだことを振り返ることができる。まとめでも、アクティブ・ラーニングを意識していきたい。